

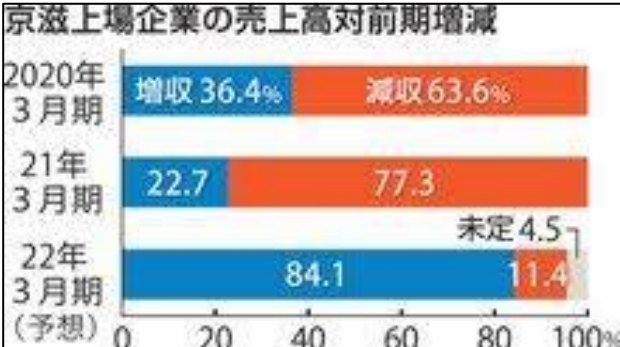
## 出そろった京都大手企業の企業業績

24年3月末決算の京都大手企業の業績発表が出そろった半数を超える企業が減益もしくは赤字という結果になった増収の企業が減り、減益もしくは赤字の企業が半数を超えるという厳しい結果になった。コロナ禍から脱出し、個人の消費は回復したものの、物価高、人件費の高騰、円安の影響で収益を圧迫した。

<解説>収益の改善が著しいのは、インバウンド需要や国内消費の回復で潤ったホテル、飲食、小売業界だ。客室稼働率が回復したホテル企業では、利益が10倍になったところも現れた。電鉄、百貨店なども好調に推移した。逆に4年間のコロナ特需がなくなった企業もある。バイオ企業は大きく収益を落とした。消費者対象の商品を扱う企業も苦戦を強いられた。会計支出の抑制で宅急便運送業も業績はふるわなかった。しかし、一部の飲食店は価格転嫁にも関わらず、ブランドイメージの浸透で売上は増収になった。製造業では半導体関連の装置製造業は、非常に好調を維持した。逆に、一部の製造業では中国頼みのビジネスモデルにほころびが生じ、大きく収益を悪化させた。一部の企業では、構造改善のための希望退職の募集まで開始

前記・選別の上場企業の2021年3月期業績決算

業種	売上高	営業利益	経常利益	純利益
全業種	276,442	28,179	21,929	25,269
増収	123,949	16,311	5,098	8,868
減収	152,294	11,868	16,831	16,401
増益	5,830	6,996	346	327
減益	2,893	2,877	349	29
未定	18,981	30,993	620	471
増収	55,140	81,436	4,314	3,524
減収	194,297	159,503	11,999	22,709
増益	121,880	139,607	26,790	22,442
減益	63,980	43,249	2,850	845
未定	5,764	1,488	1,652	1,459
増収	6,360	7,113	494	474
減収	46,986	34,965	14,759	6,247
増益	26,297	22,649	6,679	1,364
減益	6,232	9,029	548	492
未定	1,320	8,258	506	899
増収	80,549	82,254	▲1,098	1,236
減収	26,706	25,255	3,818	647
増益	189,873	181,232	34,693	34,692
減益	18,159	37,564	538	327
未定	18,823	34,774	▲173	743
増収	18,473	29,812	2,698	2,295
減収	1,412,284	534,800	102,478	189,582
増益	124,480	151,900	25,143	31,659
減益	855,229	377,880	65,089	51,826
未定	25,250	26,136	9	▲149
増収	398,511	395,552	21,279	22,199
減収	136,200	145,042	3,846	78
増益	258,989	302,880	45,412	25,974
減益	1,426,487	599,653	127,599	146,626
未定	1,498,189	1,594,945	206,417	254,032
増収	116,473	139,473	3,435	3,620
減収	29,499	949,919	3,614	1,945
増益	30,549	74,298	2,295	2,594
減益	393,499	395,413	65,378	42,663
未定	13,234	19,692	894	68
増収	2,008,887	3,282,289	32,426	21,898
減収	1,498,189	1,594,945	206,417	254,032
増益	1,158,024	8,280,518	988,998	969,476
減益	24,880	26,338	2,523	1,893
未定	7,170	6,903	▲607	▲1,998
増収	66,284	86,872	11,579	22,875
減収	136,156	153,825	25,745	26,269
増益	980	454	14	21
減益	121,441	127,441	19,264	1,111
未定	18,444	19,884	134	▲13
増収	25,327	26,472	1,322	1,207
減収	3,347	6,625	▲143	▲1,968
未定	26,542	86,212	▲260	▲2,211



した。総じて、多くの企業での業績はまだ模様となり、好調の業界と不調の業界の明暗が顕著になった。以前のように、あまねく多くの業界、業種で右肩上がりの業績にはならないことがはっきりした。2025年3月期の業績予想も同時に発表されたが、約7割の企業で業績は回復し、プラス予想となった。半導体市況の回復、ゼロカーボン装置への転換などで需要の拡大が見込める半面、中国市場の低迷、円安による輸入原材料の価格アップ、人件費の高騰など、マイナスの要因も多い。ただ、増益の予想を立てている企業は製造業が多い。一部の製造業では、半導

体関連の投資の償却が増加し、減益を見込んでいる企業もある。また、構造改善のための大規模な人員削減に取り組む企業は、そのための特別損の計上があり、収益は悪化すると見込んでいる企業も多い。加えて、運送業の2024年問題の影響がどこまで及ぶかを見通せない企業も多い。総じて、2025年度の業績は不確定要素が多く、はたして当初予想通りの結果が出るとは懐疑的な企業が多いのではないか。

